

災害ボランティアセンター

設置演習を行いました



～特集～

災害ボランティアセンター
設置演習 P4



TOPIC

- 子ども服リユース事業／新年のご挨拶 P2
- あいのわ支え合い講座 P3
- 災害ボランティアってなに？／南部町・八頭町つながり合い・支え合いのまちづくり活動発表会 P5
- ボランティア団体紹介 P6
- フードパートナー事業 P7

南部町社会福祉協議会

本 所：法勝寺331-1

総合福祉センターしあわせ内

0859-66-2900

会見支所：浅井938

総合福祉センターいこい荘内

0859-64-3515



最新情報はここから

令和7年新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

平素は社会福祉事業推進に特段のご理解ご協力を頂き誠にありがとうございます。

さて、昨年は年頭に能登半島地域でM7.6の大震災が発生し、家屋倒壊、火災、土砂災害など多くの被害をもたらしました。そのような中、被災地の復旧・復興に少しでも役に立ちたいと当社からは災害ボランティアセンター運営支援として2名を派遣しました。また、募金活動により100万円余りの募金を頂き復旧・復興の一助として被災地へ送りました。

南部町でも平成12年の震災を経験しましたが、その時の経験も少しずつ薄れてきているように思います。災害は、いつどのような形で発生するかは予想することが非常に困難です。そのためにも日頃の災害に対する訓練が大切であり、当社協も万が一の発生に備え災害ボランティアセンターの立ち上げとその機能の充実に関し訓練に務めてまいります。

南部町地域福祉推進計画（5年間）については、基本理念である「みんながいきいきと活躍し、心をつないで支え合う共生のまちづくり」の実現に向けた当社協の計画達成状況の検証を行い、来期の計画最終年度に向け、更に地域福祉の推進に努めてまいります。

今後関係諸団体の皆様方と連携・協力を進めながら事業運営に努めてまいりますので、本年も宜しくお願い申し上げます。

南部町社会福祉協議会

会長 入口 幹

子ども服リユース 譲渡会を開催しました！

令和6年11月9日（土）、キナルなんぶで「子ども服・用品譲渡会」を開催しました。会場内には、前回好評だった親子で楽しめる“eスポーツ体験コーナー”や、“フードドライブ試食会コーナー”も用意し、多くの方にご来場いただきました。



開催にあたり、たくさんの服・用品の提供にご協力いただきありがとうございました。
次回の譲渡会は春頃の開催を予定しています♪

譲渡会運営は社会福祉法人における公益的な取り組みとして、祥和会・伯耆の国様にご協力いただきました。

また、赤十字奉仕団さんには、お子さんと遊んでいただく等、大変お世話になりました。



～随時受付中～



社会福祉協議会では、次回開催に向けて
ベビーカー・チャイルドシートを随時受付しています
受付場所：総合福祉センターしあわせ 社会福祉協議会窓口
受付時間：平日8：30～17：00（土・日・祝日休み）



令和6年度 あいのわ支え合い講座



誰もが住み慣れた地域でいつまでも健康に暮らすためには、日頃からの住民相互のつながりや支え合いが大切です。ボランティア活動や地域でできる活動に参加していただける方を増やし、お互いに助け合える地域づくりのために理解と関心を深めていただくことを目的とし開催しました。全講習受講者には、南部町より独自の4級ヘルパー認定証が授与されます。

【日時・講座内容】

- 《1日目》 11月8日（金）
介護の基礎を理解しよう
- 《2日目》 11月14日（木）
福祉制度・サービス・活動を知ろう
- 《3日目》 11月19日（火）
サービス利用者を理解しよう
- 《4日目》 11月21日（木）
ボランティア活動を理解しよう
- 《5日目》 11月28日（木）
運動・レクリエーションを体験しよう

全5回の講座で講師の方から学びました！



運動・レクリエーションを体験しよう

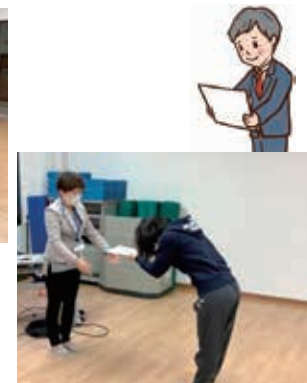


モルック対決！



eスポーツ普及員養成講座

4級ヘルパー認定



全5回の講座を修了された、
4名の皆さんが認定されました。

南部町防災訓練

災害ボランティアセンター
立ち上げ演習

11月17日(日) 9:00
プラザ西伯

みんなでつくる
南部町災害ボランティアセンター

【講師】

日野ボランティア・
ネットワーク副代表
日野町社会福祉協議会事務局

森本 智喜 氏

南部町防災訓練の中で、災害ボランティアセンターの立ち上げ演習を行いました。町内ボランティア団体や防災士の方などが参加され、講話の後に災害ボランティアセンターの立ち上げ演習に取り組みました。講話の中で、「〇〇なんぶだったらいいなあ」を考えスローガンを立てて共有することで継続して支援をしていくことができると言われていました。

演習では、限られた時間で災害ボランティアセンターの初期の立ち上げを行い、実際に各場面運営を行いました。運営する中で、目まぐるしく状況が変わっていき、その場での対応や連絡・連携に迫られる状況でした。

今回の演習を通じて、改めて日頃からの備えやつながりづくり、地域の力をつけることの大切さを学びました。



ボランティア
受付班



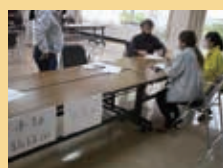
活動調整
マッチング班



資材班



本部
総務班



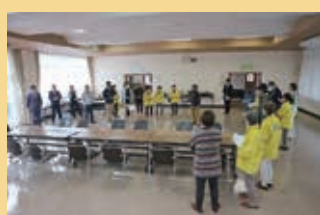
救護班



ニーズ
把握班



ボランティアセンター運営



そもそも災害ボランティアって何？



災害ボランティアってどんな活動？

地震や大雨、火山の噴火などの大規模災害に見舞われた地域では、復興に向け家屋や地域内の清掃、被害物品の整理など様々な活動が始まります。そこで、地域住民の力だけではなく、様々な方に協力をいただき、災害復興に向けた活動の大きな力となるのが「災害ボランティア」です。

実際に行われた活動例

- 家の片づけ、災害ゴミの搬出
- 子どもの遊び相手、託児代行
- 話し相手
- 避難所でのお手伝い（炊き出し、洗濯など）
- 生活物資等の訪問配布
- 募金活動

災害ボランティアセンター

災害時に設置される地域でのボランティア活動を円滑に進めるための拠点です。近年では、被害の大きな災害に見舞われたほとんどの地域に立ち上げられ運営されています。運営については一般的に、被災した地域の社会福祉協議会、日頃からボランティア活動に関わっている人たち、行政が協働して担うことが多いです。

災害ボランティアセンターの活動内容

- 被災地のニーズ把握
- ボランティアの受け入れ
- 資機材の貸し出し
- ボランティアの活動調整（マッチング）
- 生活物資等の訪問配布



南部町・八頭町 つながり合い・支え合いのまちづくり活動発表会



少子高齢化、人口減少、地域コミュニティの縮小などが進み、今後様々な生活課題の発生が予想されている中で南部町・八頭町では、設立の経緯は異なりますが、地域振興協議会（南部町）・まちづくり委員会（八頭町）という小地域福祉活動を基盤に縮小する地域社会に対応した仕組みづくりを目指すという、共通の地域福祉のデザインを持つ地域福祉推進計画が策定されています。今年度から相互の視察研修や活動報告会などを通じて地域づくりのアイデアや課題に対応する取組みなどを学び合っていくこととなりました。

11月20日（水）13：30～15：45に「南部町・八頭町つながり合い・支え合いのまちづくり活動発表会」が両町の会場をオンラインで接続して開催されました。南部町会場（キナルなんぶ）50名、八頭町会場66名と地域振興協議会・まちづくり委員会を始め地域から様々な方々の参加がありました。両町とも2地区ずつ、南部町からは東西町・あいみ富有の里地域振興協議会が活動発表され、発表後は活発な意見交換となりました。また、当日は、両町の地域福祉推進計画の策定に関わられた鳥取大学地域学部の竹川教授も八頭町会場から参加され様々なご助言をいただきました。今回の発表会で南部町、八頭町お互いに良い刺激、参考になったと思われます。当社協も地域福祉推進計画の実現に向け地域の取り組みへの伴走支援を継続してまいります。



ボランティア団体紹介

Vol.1

南部町赤十字奉仕団



【活動内容・PRしたいこと】

南部町赤十字奉仕団は2025年には結成20年を迎えることとなります。20年の歴史の中には、様々な奉仕活動が実践され、継承されています。「陰の力となって奉仕する」という赤十字信条のもとこれからも地域の皆様に信頼され喜んでいただける奉仕活動に取り組んで参ります。皆様も一緒に活動してみませんか？いつでもお待ちしております。

◇夏休みボランティア体験での小中学生との交流



Q & A

Q・南部町赤十字奉仕団に入って良かったと思う事は？

A・一言では言いづらいですが、誰かの為に役に立ちたいと思ってる方たちとのネットワークができることです。また、日常生活では味わえない体験の積み重ねで様々な役立つ知識や技術を身につけることができることです。そのような体験によって、喜びや苦しみも自分の内面を磨き、豊かなものになったと思う点です。

Q・誰でも入れるの？

A・どなたでも入団していただけます。年齢性別等の縛りもございません。どなたでも大歓迎です。

Q・団体の行事やボランティア活動は必ず参加しないといけないんですか？

A・これは団員の中で合言葉になっているのですが、「出来る人が出来る時に出来るように」ということで気負わず取り組んでいただけます。

Q・どうやって入ればいいのか？

A・事務局である社会福祉協議会または団員が各地区におられますのでお声がけいただければと思います。



◇西部地区赤十字奉仕団基礎研修会（防災研修でのグループワーク）



◇託児ボランティア（社協子ども服譲渡会にて）



◇車いす介助講習会



◇世界赤十字デー街頭キャンペーン

・赤十字の父、アンリーデュナンの生誕日である5月8日に花回廊、丸合、ウェルネスで赤十字の活動を広めるための街頭キャンペーンとしてティッシュの配布を行います。



◇献血車協力



◇八頭町赤十字奉仕団との交流会

その他週に一回のフラワーボランティアの活動や防災の研修などに参加して災害時にリーダーとして活動する防災部等の活動などがあります

登録をお願いします

フードパートナー事業

寄付していただきたい食品

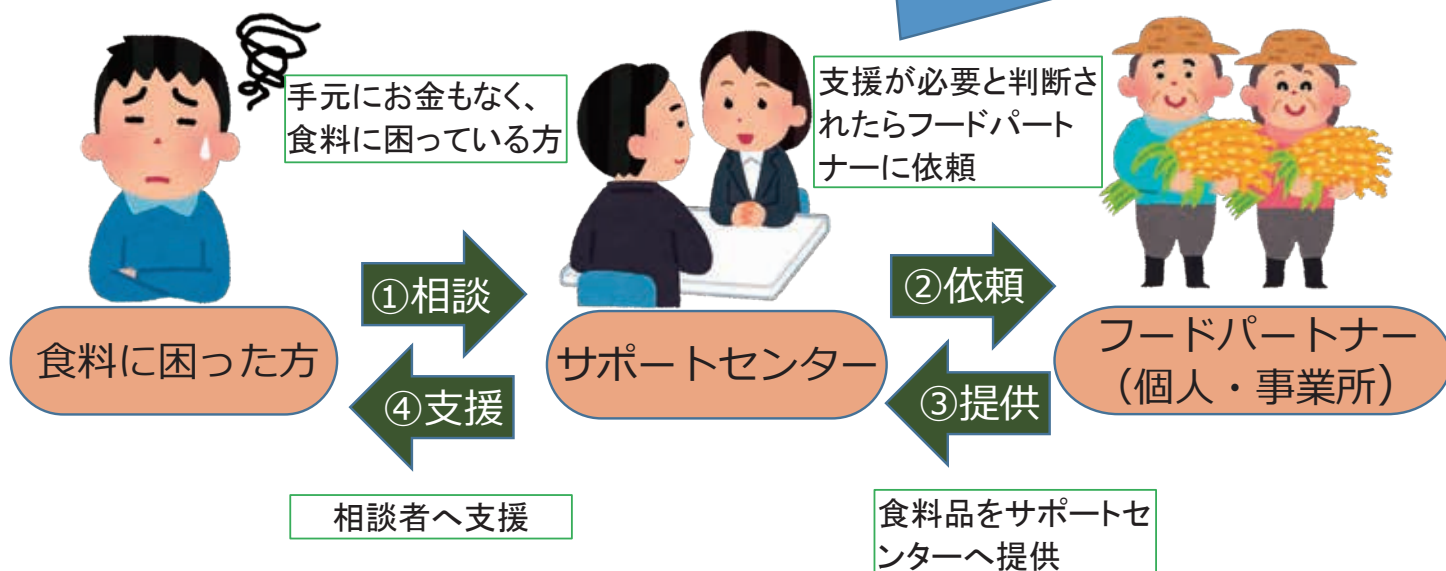
- ・ お米、麺類などの乾物
- ・ 缶詰、レトルト、インスタント食品
- ・ 砂糖、塩、しょうゆなどの調味料
- ・ のり、ふりかけ、お茶づけの素
- ・ 飲料

「賞味期限までに食べきれそうにない」
「畑で採れすぎた」など捨てるにはもったいない
食材があればぜひご協力下さい！



本会では様々な理由で生活に困っている方の相談窓口を設置しています。金銭的に困窮し、一時的に食料に困った方に対して事前に登録いただいている「フードパートナー」から提供された食料品を利用希望者に提供する「フードパートナー事業」を実施しております。支援の申請があった時に、何か食料を提供してもよいという方は、是非、登録をお願いします。

フードパートナー事業の仕組み



● 支援が必要な方から相談があり、提供が必要な場合は、提供できる食料品がある「フードパートナー」に食料品の提供をお願いします。

● この事業に協力いただける個人・事業所等の方は「フードパートナー」として事前に登録をお願いします。

ご寄付ありがとうございました



(令和6年9月1日から令和6年11月30日受付まで)

頂戴しました寄付金は、地域福祉委員の活動費・いきいきサロン活動助成金・福祉バス運営経費・配食サービス事業などの福祉活動の財源として活用させていただいています。

香典返し

(敬称は省略させていただきました。)

寄付者名	集落名	故人名	金額(円)
長谷川 勝	伐株	長谷川 和子	金一封
亀尾 徳学	柏尾	亀尾 千代子	金一封
植田 泰子	原	植田 博	金一封
倉鋪 千鶴子	西	倉鋪 信行	金一封
亀尾 徳学	柏尾	亀尾 寛一	金一封
福田 香代	四季	白石 正光	金一封
井上 紀生	上阿賀	井上 明己	金一封
栗木 正人	八金	栗木 優爾	金一封
山本 一俊	口絹屋	山本 高俊	金一封
種 大輔	上阿賀	種 浩由	金一封

寄付者名	集落名	故人名	金額(円)
庄本 睦男	下阿賀	庄本 みさ子	金一封
古川 和彦	上落合	古川 豊一	金一封
遠藤 浩由	城山	遠藤 治男	金一封
戸田 昭弘	池野	戸田 恒子	金一封
遠藤 総司	入蔵	遠藤 三恵	金一封
佐伯 千恵美	谷川	佐伯 克典	金一封
原 昌利	西原	岩田 進	金一封
秦本 寿文	駢牛	秦本 明理	金一封
宮倉 正紀	境	宮倉 文治	50,000

◎ご寄付の際に、広報紙への掲載を同意された方のみ載せています。
◎寄付金額等の記載につきましては、寄付者ご本人の意思によるものです。



～なんぶのまちを良くする仕組み～

赤い羽根共同募金

令和6年10月の募金運動開始から月末の期間、
たくさんのあたたかい募金をいただきました。

ありがとうございました



編集後記

令和6年の新語・流行語大賞に、テレビドラマ「不適切にもほどがある！」を略した『ふてほど』が選ばれました。昭和61年と令和の現在との価値観の違いを取り上げています。バスの中での喫煙など、今では禁止行為の言葉がバンバン出ていました。

また、昭和三十年代の様子や風景がとてモリアルに描かれていた「となりのトトロ」の録画を三歳児と何回も見ました。「まっくろくろすけ」が怖くてしがみつかながらも繰り返し見るからです。自分は懐かしく感じ、親子でも昔の話をしました。足で踏む洗濯シーンにいたっては、若者には全く分かりません。記憶的には最近の出来事のように思いがちですが、景色や社会、価値観の大きな変化を映像で再認識したものでした。

野球の大谷選手や将棋の藤井八冠など傑出した若者が活躍しています。これら若者が、今後、新たな社会・地域を作り上げていくのか期待したいと思います。

《H・Y》

